

王国分裂

シリーズ～旧約聖書入門～

これまでのあらすじ

- いいとこなしの初代, サウル王
 - 最初の王サウルは, 主の指示に背いたので, 王位を受け継がせることなく, 非業の死を遂げた
- イスラエルの星, ダビデ王
 - 武勇に優れたダビデ王は, 周囲の国々を平定し, イスラエルに平和をもたらしたが, 部下の妻を奪ってその部下を殺すという大罪を犯した。しかし, 素直に悔い改めたダビデを主は赦し, その王位を息子に受け継がせた
- 墜ちた巨星, ソロモン王
 - ソロモン王は, 主から賜った知恵を用いて, 王国に繁栄をもたらしたが, 晩年, 外国からの妻たちに導かれ, 異教礼拝に突き進んでしまった

王国分裂予告

- 主からの警告を無視した
 - 主は二度もソロモンに現れ、他の神々に従ってはならないと戒められたが、ソロモンは改めなかった
- 主は、王国を家臣ヤロブアムに与えられた
 - 「アヒヤは着ていた真新しい外套を手にとり、十二切れに引き裂き、ヤロブアムに言った。「十切れを取るがよい。イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはソロモンの手から王国を裂いて取り上げ、十の部族をあなたに与える。』」列王記上11:30-31
- しかし、ダビデのゆえにユダ族とベニヤミン族はソロモンの子孫が受け継ぐことになった
 - 「わたしの戒めと掟を守った、わたしの選んだ僕ダビデのゆえに、彼をその生涯にわたって君主としておく。」34

王国分裂予告

- 主からの警告を無視した
 - 主は二度もソロモンに現れ、他の神々に従ってはならないと戒められたが、ソロモンは改めなかった
- 主は、王国を家臣ヤロブアムに与えられた

- 「アヒヤは着ていた真新しい外着を脱ぎ、裸になり、ヤロブアムに言った。「十切れを切れ。こう言われる。『わたしはソロモンを十の部族をあなたに与える。』」

北(イスラエル)王国

- しかし、ダビデのゆえにユダ族とベニヤミン族はソロモンの子孫が受け継ぐことになった

- 「わたしの戒めと掟を守った、わたしのゆえに、彼をその生涯にわたって

南(ユダ)王国

レハブアムとヤロブアム

- 民の嘆願

- ソロモンから王位を継承したレハブアムに対し、民は税や労役を軽くしてくれるよう願った 12:4

- レハブアムの失敗

- 古参の家臣はこの嘆願を受け入れるよう進言したが、レハブアムは同世代の家臣を味方につけ、かえって負担を重くすると宣言した 12:10-11

- 10部族の離反

- これを聞いて、ユダとベニヤミン以外の部族はレハブアムに従うことを止め、労役の監督を石で打ち殺した
- アヒヤの預言を受け、ヤロブアムを北の王とした

金の子牛

- 南北戦争の危機 12:21-24
 - レハブアムは18万人を招集し、北に侵攻しようとしたが、主は「神の人シェマヤ」によってこれを止められた
- 2体の「金の子牛」 12:25-33
 - ヤロブアムは、北王国の民がエルサレム神殿に礼拝に行くことで再びダビデ家に心がなびくことを防ぐために、ベテル(南の端)とダン(北の端)に金の子牛を置いた
 - 「聖なる高台」を築き、レビ人でない民から祭司を任じてつかえさせた
 - 北王国にいたレビ人は皆南王国に逃げた

南北王国

北(イスラエル)王国

南(ユダ)王国

ダン

ベテル

エルサレム



南王国の墮落と凋落

- ダビデのゆえに王の地位に就くことを許されたレハブアムであったが、主に背いた
- 「主の目に悪とされることを行い…、あらゆる高い丘の上と、茂った木の下に、聖なる高台を築き、石柱、アシェラ像を立てた。その地には神殿男娼さえいた。」14:24
- エジプトの王が攻め上ってきて、ソロモンが蓄えた金品を奪っていった
- 「エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って、主の神殿と王宮の宝物を奪い取った。彼はすべてを奪い、ソロモンが作った金の盾もすべて奪い取った。」14:25-26

これらの出来事が教える真理

- 祝福と呪いの法則

- 律法を守れば祝福され(治世が長く,平和である),守らなければ呪いがある

- 経験者の勧めに耳を傾ける

- 「無知な者は自分の道を正しいと見なす。知恵ある人は勧めに聞き従う。」 箴言12:15

- 手近な方法で神を求めない

- 何でも簡単で即座に手に入る現代は,信仰における「忍耐」の側面を最も要求される時代である
- 神様を礼拝することを第一とし,中心として生活する